

## 白鳥、とは言うけれど・・・

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実

日に日に暖かくなり、春めいてきた3月半ば。「今朝、白鳥の北帰行を見たよ」などという会話がチラホラ聞こえてくる頃ですが、そもそも“ハクチョウ”という和名の野鳥は実在しません。今回はそんな白鳥類の見分け方をご紹介しますましょう。

シベリア方面から越冬のために毎年日本に渡ってくるのは、オオハクチョウ①とコハクチョウ②の2種類です。オオハクチョウは全長約140cmと日本の野鳥では最大級の大きさで、①の右下に写っているマガンがカモ類より一回り大きいことを考えると、その巨体は一目瞭然です。コハクチョウはその名の通りオオハクチョウより一回り小さいですが、②と一緒に写っているオナガガモと見比べると、やはり大きいことに変わりはありません。

ではこれら2種の識別点はどういうと・・・①②の写真で、<sup>くちばし</sup>嘴の黄色い部分にご注目下さい。黄色が大きい方(嘴の約2/3が黄色)がオオハク

チョウ、小さい方(約1/2が黄色)がコハクチョウです。嘴がピンク色の奴もいたぞ!という声上がるかもしれませんが、それは外来種のコブハクチョウ③です。かつて飼育されていた個体の一部が全国各地で野生化しており、青森県でも小川原湖周辺に生息しています。

秋田県の八郎潟で、稲刈り後の落ち穂を食べる白鳥類の群れを見つけました④。この写真では両脇の2羽がオオハクチョウ、真ん中で首を伸ばしているのがコハクチョウです。宮城県のかぶくりぬま蕪栗沼では、3種が仲良く泳いでいました⑤・・・オオハクチョウとコハクチョウはもうお分かりでしょう。もう1種は左から3番目の嘴が真っ黒な個体、ちょっと珍しい冬鳥のアメリカコハクチョウです。白鳥達が北に帰る前に、ぜひ嘴に注目して観察してみてください。意外と同じ群れの中に複数種が混在していて、面白いものですよ。



①オオハクチョウ



②コハクチョウ



③コブハクチョウ



④落ち穂を食べる2種



⑤群泳する3種